

一五 大原傳兵衛居屋敷
打渡候儀覺

一、定番御馬廻之内大原傳兵衛望屋敷之儀、被下屋敷成共、請地に成共、勝手次第可被相渡事。

正月十六日

伊藤 内膳
笹田 助左衛門
前田 七郎兵衛
奥村 河内
奥村 因幡
前田 對馬

近藤 新左衛門殿
津田次郎左衛門殿
村 善右衛門殿

一六 與力屋敷各別に相渡候儀御定

惣與力屋敷之儀、向後人々に被下候條、御昵近屋敷御定歩

數拾歩劣に、與力屋敷可被相渡候。恐惶謹言。
(寛文五年)
巳三月十八日

奥村 因幡
今枝 民部
前田 對馬
奥村 河内

山本久左衛門殿
高山 勘兵衛殿
武部四郎兵衛殿

一七 御扶持方大工・町大工
被下屋敷御定

御扶持方大工并町大工被下屋敷、向後五拾歩宛可被相渡候。
以上。

(寛文六年)
午八月十二日
今枝 民部
奥村 因幡
奥村 河内
前田 對馬

山本久左衛門殿

高山 勘兵衛殿
武部四郎兵衛殿

一八 御馬方御用屋敷相渡候儀御定

御馬方之内、人により御馬御預被成候に付而、居屋敷知行當之外、御馬方爲御用屋敷、百五拾歩宛可相渡旨被仰出候條、可被得其意候。向後御馬方之者共、屋敷拜領仕候刻、奥村伊豫、横山志摩方へ可被及案内候。爲其如此候。以上。
(延寶四年)
辰九月十二日

横山 左衛門
奥村 因幡
前田 對馬
本多 安房

御普請奉行中

一九 被下屋敷に作事不仕候儀御定

萬治二年御定書御々條之内、被下屋敷之儀請取、三年作事

不仕明置候もの候は、可取上旨被仰出候得共、自今以後不可及其沙汰之旨、延寶五年三月被仰出候條、向後可被得其意候。以上。
(延寶七年)
己未二月廿六日

奥村 因幡
前田 對馬
横山 左衛門
本多 安房

御普請奉行中

二〇 百姓地居屋敷に被下候儀覺

一、享保十七年、横山大和守殿下屋敷續、牛坂村領之内四千歩計相渡り、がけの方空地出來候處、二千歩計請地に相成候に付、御算用場之遺候紙面之扣。

牛坂村領百姓地之内、居屋敷・下屋敷等に拜領仕度旨、御普請會所之願書付出之候得ば、願所繪圖に記、相渡候而茂指支申儀茂無之候哉之旨御算用場之申達、指支不申趣十村等書付御申付被指越候得者、所之儀相伺可被下旨被仰出候上、十村并村肝煎等相見を以打渡、所により地形り有之、拜領